

# 心あな和



# 「お葬式」に思う

角田 泰隆

## お釈迦様のお葬式

実は仏教では元来、死者に対する送葬儀礼に対して、あまり積極的ではありませんでした。それは、仏教が死後のことより、今を「生きる」ことを大切にしたからであると考えられます。

## 残された人の思いが営むもの

最近、多くの方々から、残された家族や親族に負担をかけたくない、迷惑をかけたくないという思いから、「あまりお金をかけずにひっそりと」残された人の自由でいい、任せる」と思う人が多くなってきたといわれます。その思いは、実はお釈迦様の思いにも通じるものがあります。残された人への思いやりがうかがわれます。

## 慌ただしい現今の葬送儀礼

慌ただしく諸事に振り回されて、このころのこもった葬式が出来ていない、そんなことを感じることはありません。家族の逝去後、主治医への連絡（自宅の場合）、親族や知人への連絡、お寺や葬儀社への連絡、死亡診断書と死亡届の提出、火葬の申込み、湯灌や枕経の準備等を行いながら、並行して、ご葬儀の準備もしなければなりません。

## こころのこもったお葬式を

長野県では基本的に葬儀の前に火葬が行われます（\*但し、お亡くなりになってから24時間経過しなければ火葬はできません）。このことは本来の送葬のあり方ではありませんが、反面、火葬を先に済ませる風習は、時間的に余裕をもった、心のこもったご葬儀を可能にするものでもあります。

## 曹洞宗で行われているお葬式の意義

ところで、お葬式は、それぞれの宗教や宗派において、それぞれ信仰に基づいて、重要な意義をもった儀式が営まれています。火葬して墓地に葬ればよいというものはありませんし、単なるお別れの儀式ではありません。

## 曹洞宗で行われているお葬式

曹洞宗で行われているお葬式は、「亡くなった故人に、み仏のお弟子になっていただく儀式」であり、それに先立つ「枕経」は、俗世との縁を断って髪を剃り、仏の弟子になるため迎えることができず、まずは枕経と火葬に心を置き、これを済ませて、その後ゆつくりと故人を偲びながら準備をして、数日から一週間後に葬儀を行うようなかたちを、お考え頂ければと思います。お寺としても、葬儀社としても、十分な行き届いた対応が出来ると思えます。これまでものやり方を急に変えていくことは難しいでしょうが、今後はお寺や葬儀社と、皆さんとでいろいろと話し合って、こころのこもったよりよいお葬式のあり方を考えていきたいと思います。

## お葬式では、これから行く仏界での生活規則である「戒律」を授かり、仏界での名前である「戒名」を授かります。そして安心して仏界に旅立つことができるのです。曹洞宗のお葬式では、お釈迦様から代々受け継がれて道元禅師へと伝わり、そしてさらにご導師さまに伝えられた単伝・正伝のみ教えが、道元禅師が示された「仏祖正伝菩薩戒作法（ぶつしょうぜんぽさつかいさほう）」に

従って故人に授けられます。そして、ご導師さまのご引導の法語によって故人の生前が偲ばれて、仏界に導いてもらうのです。先祖代々の宗教や信仰のある皆さんは、そのことをよく理解して頂きたいと思えます。華美で贅沢なお葬式にする必要はないと思えます。ささやかでもよいですから、意義ある、厳粛な、こころのこもったお葬式を営んで頂きたいと思えます。



伊那市山寺曹洞宗常圓寺住職 角田 泰隆

所在地 伊那市大字伊那三二五一  
電話 0265(72)2409  
FAX 0265(72)9409  
本尊 十一面千手観世音菩薩  
開基 勅特賜 賢甫宗後禅師 御子柴六左衛門茂久  
開創 応永六年  
住職 第二十八世 角田泰隆  
交通 伊那市駅・伊那北駅より十分  
札所 伊那諏訪八十八霊場第五十二番

駒澤大学の教授としても、宗門のためにご尽力なさっていらっしゃるご任職。どんなにお忙しい中でもゆつたりとしたお心持ちと笑顔で接して下さいませ。

## 葬儀のマナー①

企画運営課 代田京子

若い女性の会に呼ばれて、お話をさせていたただいたこと  
お通夜のお線香は何本？  
お焼香は何回？

こんな質問をよくいただきます。何本でも、何回でも気持ちよく治まるまでお供えするのが本当なんでしょうが、小さな線香立てはすくすくいっばいになってしまします。後の人のことを考えると、奥の方から心を入れて1本。お焼香も大勢の参列者がある場合には、時間や流れを考えて、心を入れて1回。(2回あるいは3回お願います、などと案内のあった場合は別ですが)

周りの状況を思いやりながら、亡き人を偲んで心を入れてお供えする。それで十分。マナーの心はここにあるのではないのでしょうか。とお答えしています。

わがいのちをいただいた母あるは幸いなり  
父あるも幸いなり  
御先祖様あるはさらにさらに幸いなり

企画運営課のスタッフを中心として構成しているひまわりの会は各地のデイサービスを訪問させて頂きました。歌に踊りにお花のプレゼント。泣いたり笑ったり、一緒にお茶したり。私たちが「幸せ」を頂いています。中でもひまわりの会が何度もお邪魔した「みずすずデイサービス」。

市の花の桜模様の法被きて歌に踊りに心弾ませ



今度いつ来てくれるか  
ひまわりの会  
しみじみ生きている  
おいらの欲望